



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1928, 9(5): 385-393

ISSUE DATE:

1928-05-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183429>

RIGHT:

のべてある。本地方の開発は常に朝鮮移民の解決といふ一問題でなくて、ひいて我國の食糧問題に關係する大問題であることを考へる時、かゝる良著述の出た事を歓迎しないでは居られぬ。本文六二一頁、寫眞十二、附圖一、定價三圓、神田神保町三、東京堂から賣出してゐる。(F)

雜 報

○東京高師地理學會會報

東京高等師範學校地理學關係の教官、卒業生並に在學生を以て組織されてゐる地理學會は大正十四年以來毎年一回會報を發行して會員に配布して居る。其第四冊は本年三月發行された。其内容は會報、教官の地理學に關する所感、會員の學的消息、地理學關係論文目録等である。消息欄を見ると如何に高師卒業諸氏が地理學に精進されてゐるかが窺はれ、我國で地理研究が如何なる方向を指して居るか々明にされる。併し本誌の最大特長は論文目録にあつてこの第四冊には昭和二年論文目録の外に第一冊以來掲載された以前のものが出だした。即ち大正十年より大正十二年に至る目録がある。此等目録は日本及外國の主要な地理關係雜誌に載せられた論文を地理學總論、自然地理學、人文地理學、地誌(日本は地方別にしてある)、補助學及雜の項に分つて著者、題目、發行月、卷及號數を擧げてある、一般の地理學研究者に取つては甚しく便利なものである。猶第四冊

には故大關教授著述目録がある。本誌は希望者には同會で實費で頒つことにされたといふから文獻を重んずる篤學者には好都合である。

○地球學岡岡山支部近況

○第二十三回例會 九月十一日午前九時より縣立商業學校に開會左の講演ありたり。

1. 樺太旅行談

關中 水野千里君

2. 北海道人文地理概説

縣商 浦上宗衛君

來會者三十二名、別室に寫眞、エハガキ、參考地圖等數多陳列せられ皆熱心に研究せり。

○第二十四回例會 十月三十日六高八木教授の前回の續きなる

日本地史の概観

六高、八木教授

を聽講す實物標本等につき詳細説明せられたり。

○第二十五回例會 十一月十三日午前九時より縣立商業に於て開會次の講演ありたり。

1. 冬季樺太近海航海の話

元郵船上川丸船長 岸本洗太郎君

2. 文檢問題の考察

女師 北田 茂君

3. 本年度文檢問題研究

各 會 員

本日の來會者は主として本年度受験者、受験準備中の者多く二十六名なりき。

○第二十六回例會 十二月四日午前九時より縣立商業に開會

次の講演ありたり。

1. 北鮮並に沖繩事情

陸軍大佐 平野晴次郎君

2. 大正十五年冬季北陸、山陰地方の降雪に

就いて

山陽高女 小館 軍三君

右終はりて文檢受驗談に花を咲かし盛會なりき來會者三十名
○第二十七回例會 一月二十九日午前九時より例會を開き次の講演あり後文檢受驗研究をなす來會者二十八名。

1. 昭和二年度施行地理科文檢受驗談

天城中學 國末 保一君

最後に浦上幹事より昨年度の會計報告ありたり。

○朝鮮昌城鑛山

平安北道昌城鑛山は明治三十四年佛國人サルタレルに探掘を許可した所謂特許鑛山の一つであるが

明治四十三年昌城郡大榆洞（メルヒと呼ぶ）の金鑛脈が発見されて以來七十萬乃至百萬圓の年産金を續けてゐる。大正十二年に至り英國人の出資に成る朝鮮企業會社（資本金五十萬磅）が之を經營することゝなつた。昭和二年六月三十日に至る前一箇年に七萬七千三百七十二噸の鑛石を處理して十萬八千四十七磅の産金を獲一萬五千三百四十二磅の利益を擧げた。

大榆洞に於ける坑内の探掘は好成绩で昨年六月末日に於ける鑛石の鑛量は一噸に付き八・四パーセントの鑛石二十萬三千五百九十九噸である。一昨年新しき精鍊場が出来たが、青化による收金は細泥の存在する爲め不良であつたので浮游選鐵によつて細泥を分抽して、別々に處理することになつた。新昌城鑛山の特許鑛區は昌城郡内に廣く亘つて居つて、特許

期間の満期及鑛産税として利益の四分の一を總督府に納入することの不利益な爲めとて、企業會社側は總督府に交渉した結果三つの日本鑛山會社を建てることになつた。其一は北方の鑛區である甲岩鑛山會社（資本金百萬圓）、其二は大榆洞鑛山會社（資本金五百萬圓）でこれは大榆洞と之に南接した區域を經營するもの、其三はこの外の南部を經營するもので東倉鑛山會社（資本金百萬圓）である。而してこの三鑛山會社の全株は朝鮮企業會社の保持するものであるといふことになり、二名の地質技師は特許區域内に新鑛區を選定すべく調査中である。此の選定は二箇年半後の間に確定さるべきもので其の後には通常の鑛區となり特許鑛山ではなくなるのである。

○南極大陸の地體構造

南極大陸中高い山脈を作つて居るのはグラハム・ランドとヴィクトリア・ランドとである

が、此の二地方は構造及成生を異にして居る。グラハム・ランドの山脈は南極のアンデスとも呼ばれ、層序及構造は勿論火成岩に於ても南米のフォルデラスに酷似し、或る時代には此の兩地は結合してゐたので、事實同様な褶曲地が分離したものであることは疑ひのないことである。此の過去に於ける連續の跡は連鎖の殘物を現に載せて居る海嶺がそれであることは最早疑はるべくもない。即ちトリニティー・ランドとテイエラ・デル・フエゴとの間にサウス・オークホース、サウス・サンドウィッチ火山島群、及サウス・チオールチアが大脈をなしてドレイク海峡の東方に羅列して居る。この脈を以て連續して居るのは明かではあるが、サウス・チオールチア

まではさうとしても果してファルクランズもこの眞の一片であつて南極大陸の失はれた部分の残物であるか否かは確かでない。

南極のアンデスを南西に追跡するとアレクサンダー・ランド及チアークコット・ランドで其の踪跡を失つて了ふ、この二地方は同一の生成に係ることは略確である。南極大陸に於ける大問題はこの山脈が如何になつて了つて居るかである。南極大陸の反對の側即ちニウ・ジランド側に在るグイクトリア・ランドの大斷層より成る山脈は南極アンデスとは其の構造及成因に於て類似する所がない。多分二疊石炭紀に屬する砂岩の水平層を戴いた一大地壘には火山活動の證據があり且つ此の地壘は此の地方の氷河床の基盤に在る結晶質岩類の一大准平原から高聳してゐる様である。

ロッス海に於けるグイクトリア・ランド縁邊の構造はタスマニア及東部オーストラリアに類似し、過去に於てタスマニアから南方の太平洋を横切つて南極大陸に連續して居たかも知れぬといふ思ひ付きは南極大陸とオーストラリアとの間の海底起伏に關する吾人の知識からも支持される。

南極大陸と南アフリカとの關係は未だ甚しく不明である。南極大陸のアフリカ象限(即ちガウス象限)は陸地の方でも海の方でも未だ探検の最も行き届いて居らぬ部分である。

グイクトリア・ランドの地壘は南極アンデスの連續であるといふことも一の思ひ付きである。ロッス海の南方にあるモード山地の方向から見れば或はさうかも知れぬ、又アンデス

の四周には大斷層があることから見ればアンデスの山脈は畢竟グイクトリア・ランドの山脈と其の性質を異にして居ないとも見られる。第二の思ひ付きは南極アンデスがロッス海の南東にあるキング・エドワード・ランドの古い結晶質岩類中に再び現はれ且つこれはニウ・ジランドの褶曲と嘗て連續して居たといふことである。果して然らばグイクトリア・ランド及モード山地の山脈は多分南極附近を通じてコーツ・ランドに達し、コーツ・ランドを望見した探検者が其の内部に存在すると信じてゐる漠然たる山脈が存在することとなる。直接にはコーツ・ランドの構造に就いて何事も判つてゐないがウエツテル海から撈取されて、コーツ・ランドから出たと思はれる岩片に依るとグラハム・ランドとよりもグイクトリアに近い關係のあることを思はせる。

兎も角南極大陸に關する吾人の知識によれば、太平洋の窪地は地向斜の一系統を作つた褶曲山脈の一大環に依つて縁取られてあるといふ信念を確認させる様である。此の太平洋地向斜の縁邊部の殘物は未だ如何なる船も通り抜けることが出来なかつたエドワード・ランドの北方にある神秘的な氷で閉された地方の小島嶼の中に恐く發見されることであらう。(R. N. R. プラウン博士の英國學術協會に於ける講演の一節に依る)。

○滋賀縣陣屋山の石灰臺地

陣屋山は何れから登るにしても險阻である。全山古生代の石灰岩である、地形は高原狀で谷は極めて深い、殊に其東南の大君ヶ畑佐日の間の犬上

川上流は伏流である。兩岸の急傾斜は非常なものである。想ふに石灰岩の大斷層を通じてゐるのであらう。頂上は全く平坦で西北遙に杉村に至る間亦坦々たるものである。六九三米の陣屋山頂から西方に向うと琵琶湖の中部以南は一望の中に入る。この山に存するドリネは(方言ニエリ)北西—南東の方向に分布し、陣屋山頂上附近には少くとも二十はある、小は直徑五米より、大は五六十米に達する、形狀は種々あるが多くの圓形又は之に近い橢圓形で摺鉢形なるも、中には桶狀もある。深さは五六米から六七十米である、最小にして最新なるは陣屋東南部のもので直徑平均二米、深さ三四米位、形はセメント椀の如し、最大は地蔵の前のドリネで直徑約百米である、底は大抵平坦となつてゐる。陣屋山頂上から北西約二

軒の處に東西約三〇〇米南東約一〇〇米の間陷地がある、中に脇ヶ畑村字杉の部落がある、戸數は十四五戸あらうか。これも石灰岩地域の大間地ボリエである。附近の雨水は悉く茲に集中する、地中に吸込まれることはドリネと等しい。陣屋山頂ではカッレンは少く、殆どテラロツサで覆はれてゐる。ドリネの中の畑の土も皆テラロツサである。杉から三軒の急坂を下る間の山途には全く人家がない。八重峰に出て多賀に歸つたことであつた。(國員耕崎報)

○太古に於ける綿布の使用 印度は夙に綿の原産地だと考へられるが今日では一ヶ年五億五千萬留比の綿布を輸入されるやうになつたけれども、それは英國の政治の結果で、事實は印度は棉花產出國であると同時に、古代には綿布輸出

國で、埃及でミイラを包んだ布は印度の綿布であつた。従つて印度人の一小工業たる手織業も中々根強い生命があつて、英國の政争で容易に撲滅しない。

印度中央政府考古學局が最近の發見によれば西曆紀元年三十年の頃既に印度に綿布の使用された實證が出てきた。夫は目下有史以前の舊都たる「モハンジョダロ」市(シンド地方カラチの北)の一地域を發掘中偶々一種の織物で包まれたる寶石入の銀瓶を發見した。此織物の或部分は銀瓶に粘着して居るが、何分幾千年の久しき間地中に埋没されて居た爲、質は全く脆弱である、取敢へず孟買市中央棉花委員會棉業研究地長たるターナーに依頼して試験をした結果、疑もなく所特花有の渦卷狀を呈してゐる點で全く綿布たることの疑の餘な棉きことが證明された。古來パピロニア及希臘では綿製品のことをシンドウ又はシンドンと呼んだことも此インダス河流域での棉花原産地名から來て居るものとも想像してよい。曾てパピロニア及希臘で知られて居た綿布は木棉であつて、棉花を原料としたものでないであらうと考へられてゐたのであるが、之も今回の發見によつて全く氷解された。蓋し數千年來印度では一年草の棉花から其纖維を採取し之を紡いで糸にし且つ之を手機にかけて織つたものである。カンダール主義が叫ばれる今日この考古學的の發見は我等に何等かの暗示を與へないでは止まぬ。

○世界紡錘數 一九二七年の七月末現在の世界各國の紡錘總數一億六千四百五十九萬七千餘で過去半間に一萬九

々五百萬留比からセイロンへむけて輸出する。

本邦で日常食物調理に缺くべからざる鯉節（錫蘭語でアンバラカダといふ）の産出が多い。これを本邦品に比すれば製造上の技術極めて劣るもその品質に至つては本邦産と些の優劣がない。従つてコロンボを経て年々多額の鯉節が我國へ輸入されるといふことである。其値段も極めて安くコロンボでの小賣相場一付度七十仙内外である。セイロン島人は日本人と同様に食物の調理にこれを用ひてゐる。

かうした生きた事實を見ると、球上の蕨爾たる一礁島と我々の日常生活とに既に少からぬ因縁があることがしれる。

首島をマレーといひこゝには學校がある、男子は漁業に従ひ、女子は農耕に従ひ、棉花より絲を紡ぎ衣を織つてゐる、汽船を島内に用ひると良風美俗が破れるといつて、外人に汚されることを恐れて、ボラ商人の有する帆船を唯一の交通機關としてゐる。氣候衛生の關係から轉地遶山の好地であるがまだ外人の出入を禁じてゐる。しかし南洋印度方面に商權を延ばしつゝある本邦商業者の注視すべき一小天地であることは疑ふべからずで、現在この島からの輸出は四萬磅に達してゐる、輸入も殆んど同額がある。地圖にものらぬ小さい島々にも注意すべきことは多いといふ一例に記しておく。（F）

○世界の小麥主要産出國（一九二七年度）

地 積	一ヘクタール當	實收高佛頓
ヘクタール	收 穫	高
合衆國	二五、七五〇、〇〇〇	九六六五 三、八五五、七〇〇

カナダ	九、〇七、〇〇〇	一、五二	二、四八六、一〇〇
英領印度	三、六四四、〇〇〇	七、七	九、〇九、七〇〇
佛 國	五、四四四、〇〇〇	一、四八	七、七五、〇〇〇
亞 國	七、九六、〇〇〇	八、八	六、四四〇、〇〇〇
伊太利	五、〇八、〇〇〇	一、〇三	五、五五〇、〇〇〇
スペイン	四、三八、〇〇〇	九、九	四、〇五、〇〇〇
獨 逸	一、六四四、〇〇〇	一、八一	三、〇二、七〇〇
濠 洲	四、四四、〇〇〇	五、五	三、〇〇〇、〇〇〇

但し全世界の小麥産額はアルセンチン農牧統計局の報告によれば一九二七年度の全額は小麥一一七、七〇五、五一六噸なり

○白耳義領コンゴ 白領公果は阿弗利加の中央赤道の直下、北緯五度南緯十三度東經十二乃至三十一度の間に位し公果盆地の大部分と其周圍の高臺の一部とより成る、面積二百三十六萬平方料、白耳義本國の八十倍、我國の約六倍にして、植民地の面積にては英露佛につき、世界第四にあり。白耳義より公果に赴くには東部にゆくときはサウザンプトン、チープタン線によるが、サウザンプトン、マルセイユ、ペイラ又はダルエスサラム線により、西部ボーマに赴くには安土府より九五〇〇料の定期航路あり。地形上之を三地理區に分つ、

第一、公果盆地、北三度より南四度、東經十六度より二十度までの間は一大盆地にして、平均海拔五百米を下らず、全く海洋の影響をうけず、降雨量一年八十糎にて赤道森林繁茂し林地面積百萬平方料に達す。人跡未踏の地多し。コンゴリ

川は水量の豊富なるアマゾンにつぐと雖も、所々に急流あり（キホンボ、スタンレー）就中河口ギリシカル山脈を通過するに當り約四百軒のゴーチナあり、植民地政府はこの間に鐵道をつけ、半陸半水の交通系統をたつ。

二、カタンガ及カサイ臺地は南方、平均海拔一千里の高臺にして英領コデシア、及アンゴラに連る。氣候は高度のため著しく緩和され平均二十度なり、地中海沿岸の氣候に類し白人の農業に適し、銅以下礦産物多くして、水力電気もあり工業地となりつゝあり、三、東方湖水地方、東の國境には高き山脈あり平均二千五百米乃至三千米、ルヴェンゾリは雪源なしのきて五一二〇米を算す、湖水は概ね一千里以上の高度にあり、アルペール湖エドワード湖キヴ湖タンガニカ湖モエロ湖等を主なる湖水とし、タンガニカ湖は南北の直徑六百四十軒最大なり。氣候は熱帶より寒帶に及び、物産の種類多く湖水には對岸英領との交通あり、家畜にとみ、人口多く石炭及水力に富む故に將來は多量なり。

一九二五年の調査にては人口七百五十萬、調査淺を合すれば、大體一千萬なり一平方軒四人の密度にすぎず、土人の大部分はバンツ族にして西部森林地及東南高臺に住す。この外スーダン人及ヒグミー族は有力ならず。土人の社會は王、貴族、自由人、傭人、奴隸の五階級に分れ、男は狩獵に従事し農事は婦女子の仕事なり、文字無きも一種の結繩の文あり、家族の共產制を營む。非常に商賣を好み、順應性にとみて、一度都會に出れば、先づ洋服を着、佛語の片言を覚え、帽子

を取つて握手するといふ調子にて格別なり。白人の数は約一萬三千人なれば將來この國の開発に土人の力は必要也。人口の中心地はエリサベス、レオポルド、ボーマにて、公果の奥地とコンゴの河口とに集住す。この地方の物産は木材多く、バリサンドル、マホガニー、黒檀の如き貴重なる木材あるも輸出されず、これ水流の不便なるためにして當分は木材の挽

出は見込なきも、各種工業製紙、木材の蒸溜、アルコホル等の産は見込あり、汽車汽船は多く木炭を使用す、コバルと稱する樹脂の産多く用途はラツク、ワニス、ソノレオム等にして、コンゴの地中にはその埋藏多し。ゴムは野生にして目下其の産出減少し、象牙も亦濫獲の結果衰退しつつありと雖も現今一年に象二萬頭を殺すが故に、象牙に關しては世界的の産出地なり。農産にはコ、ア、珈琲及烟草等あり棉の栽培は比較的新らしきも、成績大に見るべきものあり。其栽培適地二百萬ヘクタールに上る。椰子の果は約梅位の大きにして房をなし一房に千乃至千五百の果を結ぶ、その内より椰子油をつくる、その種も亦油をとり、前者は石鹼、後者はマーガリンの原料となる、椰子樹の産地は東部地方カサイ地方に多く其栽培、製油大規模に行はる。鑛業には銅、カタンガの産あり最近十五年間に殆ど百倍し一九二五年に九萬噸を出せり。錫及石炭もこの地方にあり、たゞし産地奥地なれば海外輸出に不便なりとす、近來カサイ地方のダイヤモンド、ウラニウム共に有名となり、ラザウムは一九二五年公果より二十二瓦、即世界産額の九%を出せり。貿易は自本國について、英國及

英屬領尤も有力に活動せり、一九一九年九月十日、サン、シエルマンの條約により白、日、英、米、佛、葡、伊、間に商業上の自由内國民待遇を與ふことを約され居れり。

コンゴの開發は氣候及物産の性質上、奥地がまづ發展せるにより、カタンガ地方よりの交通線が尤も重要視すべきことと疑を入せず、故にナイル上流の舟行の自由、英領タンガニカ鐵道の無稅通過を確保せる外に更に最近白葡條約により將來建設すべき Tabito-Brugela 港の鐵道に關し國民待遇の約をとれり、蓋しこの通ずる Bile 地方はカタンガ高臺と同一の地質を有し將來同地開發の嚆にはコンゴ奥地より最短の太西洋交通線としてのビへは、カタンガの運命を左右すべしと考へらる。日本人もこの方面に眼をつける必要があると思はれる。誰れかアフリカを横斷するものはあないか(F)

○養兔業

近頃は京都の鶏肉屋などで「サ、ミ」だと思ふて食へると、それが兎肉であるといふ話があり、現に毎月尾濃方面から數百匹の兎が輸入されて京都で消費されるといふから、事實兎肉の消費は餘程進んであるらしいが、明に統計に上つては來ない。しかし此處ではこの兎肉、兎毛、兎皮の需要は近年素破らしく發達したと見え昨年三月ロスアンゼルス郡コンプトン市で開いた兎品評會で二千五百匹も出品された聞く所によるとカリフォルニア州では毎週二萬匹の料理に適する様に仕上られた兎が市場に出て、肉の生産費が年に約百萬兩といふから、中々どうして京都あたりの比ではないらしい。倫敦や巴里でも毎日何千封度といふ兎の新鮮肉が消え

てゆく。さて米國での養兎は一八九八年白耳義産が輸入されてからのことで、最初は愛玩用に止まつたが大戦以後食用としての價值が認められ獎勵され一段と進歩したので、食用には生後八週間から十週間目のものを屠殺して、十月頃から五月頃まで需用が多い。最近には毛皮としての兎が大に賞用せられてきた、これは其毛が自由に染められるのと、シールに模造される利があるためで、アークチツクシール、オーストラリアンシールなどいつてゐて實は兎皮である。そこで一九二六年には米國へ一億千二百萬の兎毛皮が輸入され、濠洲からは野生兎が千萬兩からも輸入されてある。濠洲の次に白耳義の輸出も多く、一九二五年には二〇、五四三、六二五本を出し價格四百萬兩に上つた。今米國への各國輸入高を見ると、(一九二五年)

白耳義	二〇、五四三、六二五	本
獨逸	九八二、八二四	佛國 一三、八一、八四二
英國	一三、〇四七、九二三	亞然丁 一、二二七、四四三
カナダ	一、八九八、六五八	濠洲 四八、九一〇、五六二
日本	六三四、二三五	支那 一、〇一九、九七七
其他	一、六八七、三九八	新西蘭 八、三五一、八五七
合計	一一二、一一六、三四四	

即日本からでも六十三萬本三十三萬兩を輸出したのである、民間養兎の獎勵をやる必要があるであらう。(F)

○ブラジルに於けるリトワニア植民地

バルチツク海岸のリトワニアは新敷の國であつたが露國に征服されて

希臘正教に壓服されてゐたが、大戦のため勞農政府になつて無宗教を標榜して教習に暴力を加へた、やがてリトワニアが獨立した後もこの無宗教の風が國內を風靡したので、狀況不利と見た同國の新教法は移住を企て、一九二二年八月二十名の視察員を伯國に送つた、そこでこの視察員はサンパウロ州にきてリオドハツシエ河の右岸に約二千アルケールの土地を購入して、同年十二月先發隊四十家族が渡來した、さうしてこゝに共產植民地を建てた、彼等の間には醫師、測量師職工、牧師、資本家、勞働者等あらゆる階級のものゝ居つたので、出てくると目ならずしてステーションから植民地の間三十軒の間に自動車道路を開き、地區設定をして四通八達之地にした、これは植民地共同資本で從事者には無報酬であつた。先發四十家族の中には資本の人もあつたが中には渡航費の支辨に事を欠いたものもあつたが、立替でもらつた。開拓第一期が終ると、其一部分は共同生活から脱退して、其共有地附近に各自地區を購入して家屋を建て、醫師は開業し、商人は店を開き農家は土地の開拓に従ひ、資本家は工場を經營したが、數百人の人々は多くは共同植民地に生活して創業後五ヶ年にして製材工場一、發電所製粉所一、教會兼學校一、病院一、粗糖製造所をたてた、鹽、砂糖、石油、衣服地を除いて、すべての食糧は自給自足し、禁酒禁煙を嚴守して、日曜毎に一家をあげて教會に參拜するといふ宗教生活をやつてゐる。

家屋でも既に永久家屋で庭には花卉を植えたりしてゐる。

質疑應答

日本人植民地のやうに數年をへても未だ茅屋に住し家の軒下をも畑としてゐるやうな極端な現實主義でなく、開拓地でも日本人ならば金山悉く畑にするが、こゝはさうでなく處女林を大事にしてのこしてゐる、一家族平均一二アルケールの畑を耕して牧畜を兼ねてゐるから、日本人のやうに苦しまずに生活を樂んでゐる。

、共同生活の植民地は將來にわたつて本國から新渡航者の足溜りにして解散しないでおく、しかも其利益分配といふやうなことは考へずに行くとつてゐる。コーヒー栽培には不適な地であるけれども、さうしたことは無頓着になつて働いてしかも着々成效して、信仰の自由を樂むといふ風である。

植民團に醫師が二名も居り、牧師ジョアンインキスが部落長となつて統括してゐる點など誠に羨むべきものがある。我國の植民計畫者及渡航者の團體もかうした實例を見て殺風景な移民にならずに、餘裕のある生活をして土着を樂むやうにあらせたいものである。

質疑應答

「問」ミシシッピ河流域について承りたし 京都 S 生

「答」ミシシッピは北米の最も大きな河であり又實に世界最大の河の一つであつて長さに於てはナイル、水量に於ては大アマゾンが之に勝るのみである。その名はアルゴンクイン語